

# 草津市の歴史的建築

立命館大学 青柳憲昌 20180721@UDCBK



印岐志呂神社本殿（滋賀県草津市、1600）



草津市指定文化財目録（建造物）

「重要文化財（＝重文）」

	指定種別	名称	員数	時代	所有者住所・所在地	指定年月日
1	国指定	伊砂砂神社本殿	1棟	室町(応仁 2)	渋川二丁目・伊砂砂神社	大正11年4月 13日
2	国指定	新宮神社本殿	1棟	室町(大永 3)	野路六丁目・新宮神社	大正12年3月 28日
3	国指定	鞭崎神社表門	1棟	江戸	矢橋町・鞭崎神社	大正13年4月 15日
4	国指定	石津寺本堂	1棟	南北朝	矢橋町・石津寺	明治40年8月 28日
5	国指定	老杉神社本殿	1棟	室町(宝徳 4)	下笠町・老杉神社	明治39年4月 14日
6	国指定	志那神社本殿	1棟	鎌倉(永仁 6)	志那町・志那神社	昭和24年2月 18日
7	国指定	観音寺阿弥陀堂	1棟	室町	芦浦町・観音寺	明治34年3月 27日
8	国指定	観音寺書院	1棟	江戸	芦浦町・観音寺	明治40年8月 28日
9	県指定	吉田家住宅主屋	1棟	江戸	志那町	平成4年3月31日
10	県指定	西方寺鐘楼	1棟	桃山(慶長9)	青地町・西方寺	平成6年3月31日
11	市指定	無量寿寺宝篋印塔	1棟	鎌倉(正安 4)	青地町・無量寿	昭和51年4月22日
12	市指定	印岐志呂神社本殿	1棟	桃山(慶長 4)	片岡町・印岐志呂神社	昭和60年7月11日
13	市指定	志那神社宝塔	1棟	鎌倉～南北朝	志那町・志那神社	昭和61年10月 23日
14	市指定	常善寺本堂須弥壇	1棟	鎌倉	草津三丁目・常善寺	平成26年7月15日

草津市HPより 2017.9.21現在

常盤地区の文化財

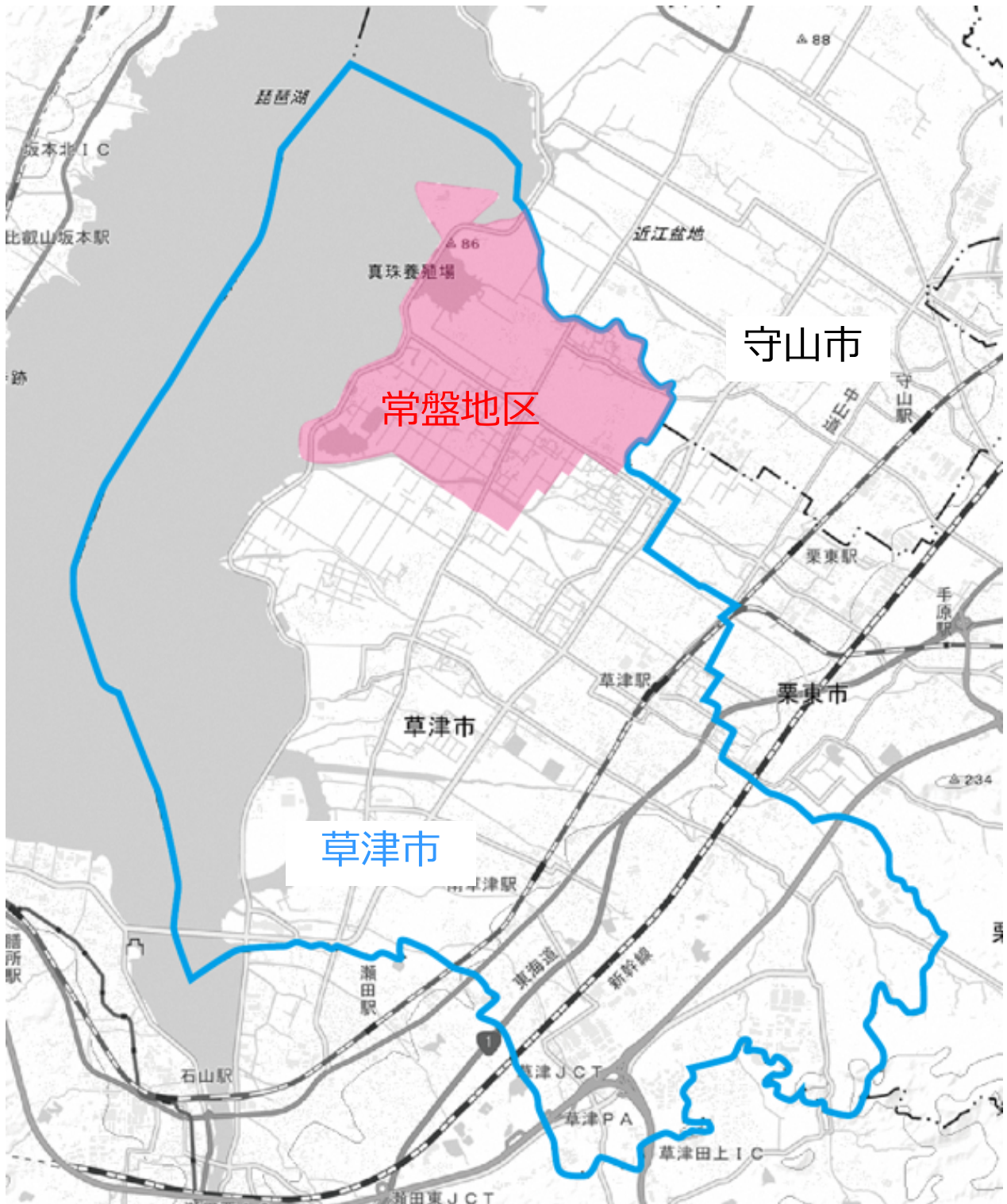
登録文化財

1	登録	吉川芳樹園店舗兼主屋	1棟	江戸	草津二丁目	平成19年5月29日
2	登録	八百久店舗兼主屋	1棟	昭和3年	草津三丁目	平成19年5月29日
3	登録	双葉館魚寅楼本館	1棟	昭和11年ころ	草津二丁目	平成20年5月7日
4	登録	双葉館魚寅楼奥座敷	1棟	昭和初期	草津二丁目	平成20年5月7日
5	登録	双葉館魚寅楼塀	1棟	昭和11年ころ	草津二丁目	平成20年5月7日



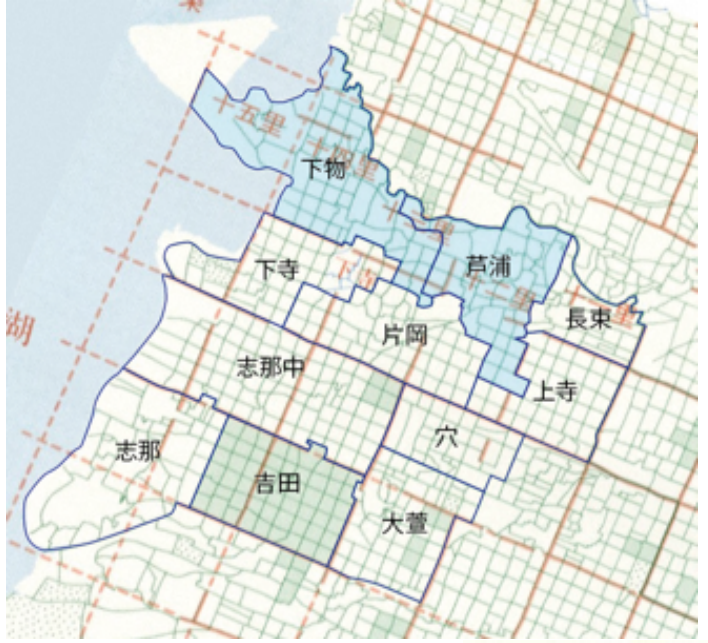
草津市常盤地区の  
歴史的集落





### 草津市常盤地区の歴史的価値

- 古代条里制の地割 (一部のみ)
- 中世の神社建築
- 惣村の中心「宮座」の慣習  
→サンヤレ踊り



常盤地区の条里地割  
下図：『草津市史』第1巻

凡例	
—	市町界
—	大字界と小字界
(—)	上記のうち、異方位の方格地割を含む地区
—	主要路
—	条里数同小字名(一致)
—	条里数同小字名(不一致)

0 1000 2000m  
0 6 12町

(天田嘉善氏による)



# 草津市湖岸集落の「サンヤレ踊り」 (毎年5月3日)



歴史的集落と伝統行事の一体的保存



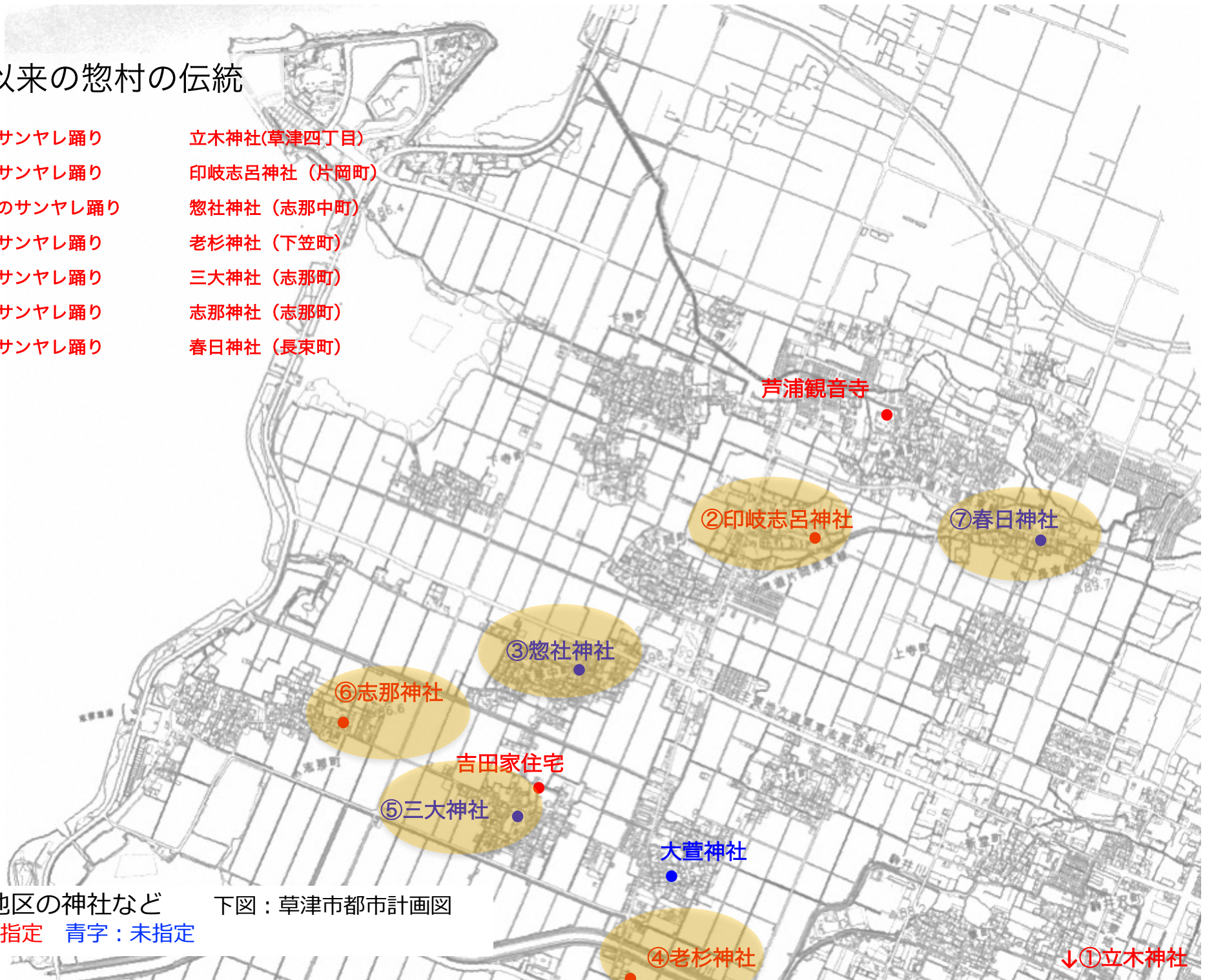
明治二十五年測図 大日本帝国陸地測量部



# 中世以来の惣村の伝統

- ①矢倉のサンヤレ踊り
- ②片岡のサンヤレ踊り
- ③志那中のサンヤレ踊り
- ④下笠のサンヤレ踊り
- ⑤吉田のサンヤレ踊り
- ⑥志那のサンヤレ踊り
- ⑦長束のサンヤレ踊り

- 立木神社(草津四丁目)
- 印岐志呂神社(片岡町)
- 惣社神社(志那中町)
- 老杉神社(下笠町)
- 三大神社(志那町)
- 志那神社(志那町)
- 春日神社(長束町)



常盤地区の神社など 下図：草津市都市計画図  
赤字：指定 青字：未指定

↓①立木神社



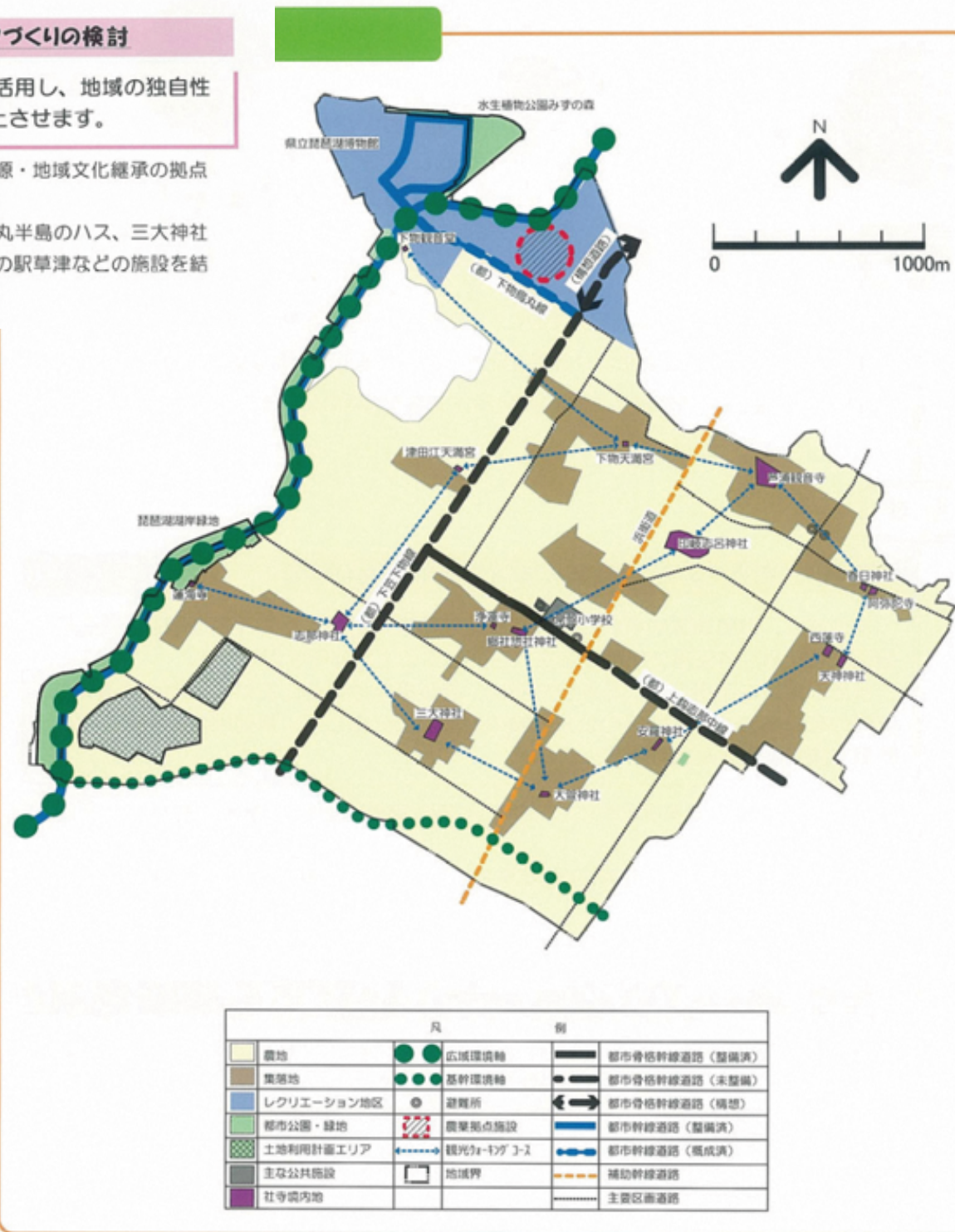
## 方針② 地域資源を活用した交流の場およびネットワークづくりの検討

本地域における自然、歴史、文化および景観などの資源を活用し、地域の独自性を高めることにより、交流人口の増加を図り地域の活力を向上させます。

- ・芦浦観音寺、三大神社および津田江天満宮などの社寺は、歴史資源・地域文化継承の拠点として保全・活用し、市民交流を促します。
- ・芦浦観音寺、津田江天満宮などの歴史資源、津田江湾のヨシ、烏丸半島のハス、三大神社の藤などの自然資源、水生植物公園みずの森、琵琶湖博物館、道の駅草津などの施設を結ぶ観光ウォーキングルートの構築を検討し、PRを図ります。

『草津市都市計画マスタープラン』  
(平成18年作成・22年一部変更)

神社を中心とする集落を結ぶウォーキングルートの構築





# 歴史的神社建築を結ぶ ルートマップ（試案）の作成（立命館大学建築史研究室）



旧志那街道の活用



# 草津市常盤地区の条里地割について

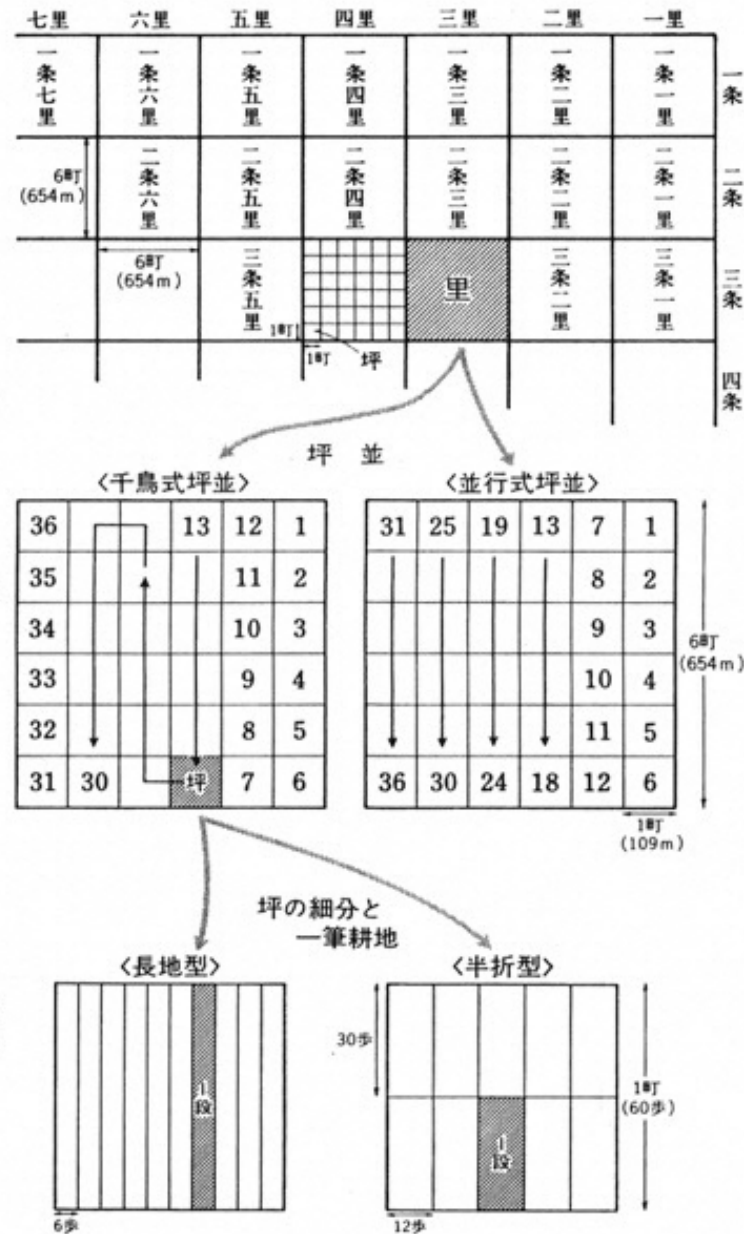


図 80 条里の区画法

出典：『草津市史 第1巻』草津市、1981



※坪並は「並行式」  
坪内の地割は「長地型」

図 81 志那町吉田地区の坪地名  
一ノ坪から三十六ノ坪までは、栗太郎主条里の6条13里、下一ノ坪以下は6条14里にあたる。吉田の集落は、伊吹里をとりまいて十九ノ坪、二十ノ坪、二十一ノ坪、二十七ノ坪、三十二ノ坪、三十三ノ坪を占め、あとは水田である。坪内の地割は長地型であった。



吉田地区の景観



## 明治初期における常盤地区の地割

古代条里地割がよく残存していたことがよくわかる。

※戦後の圃場整備で多くが失われた。

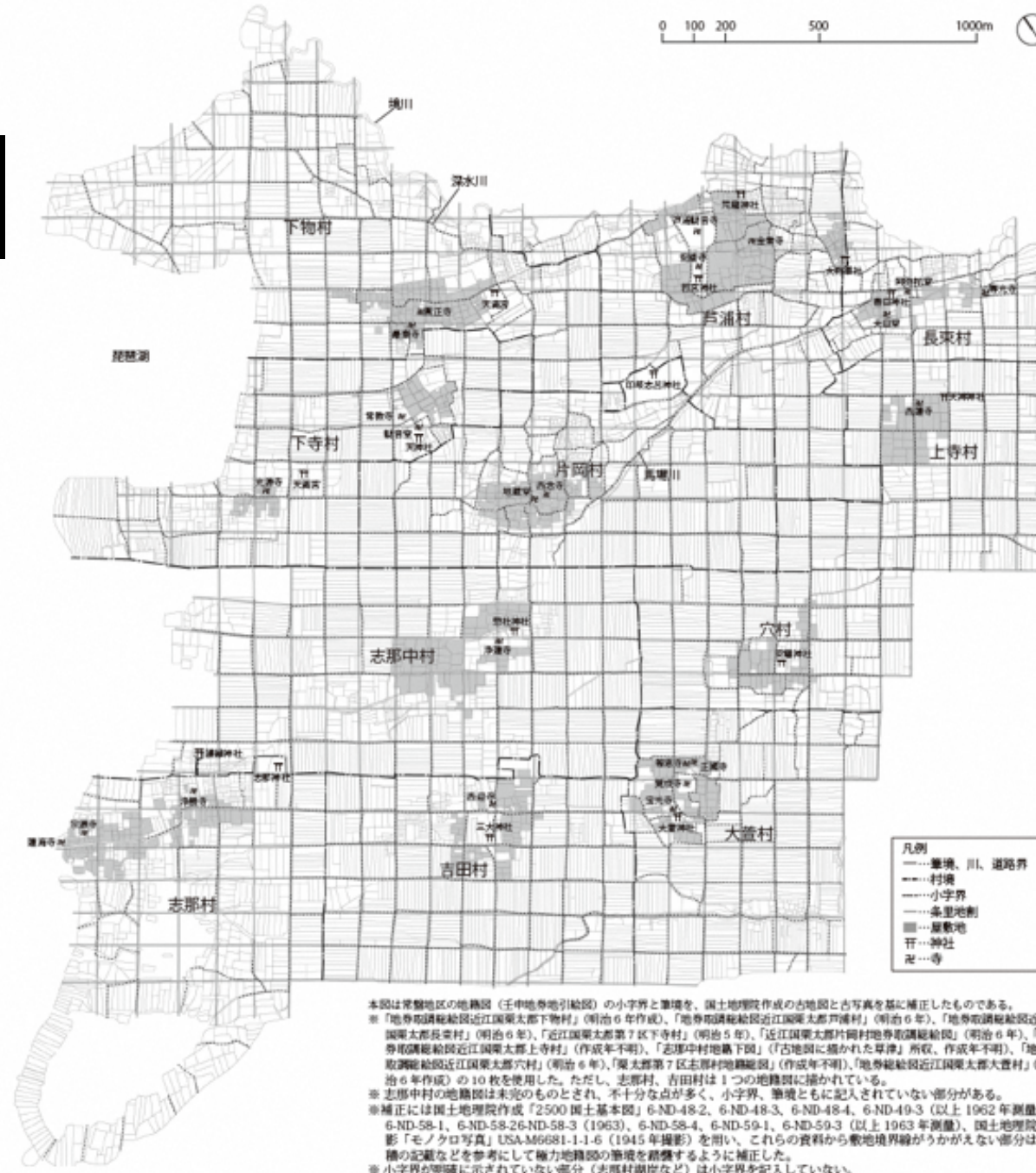


図2 常盤地区における明治初期の地割の復原図

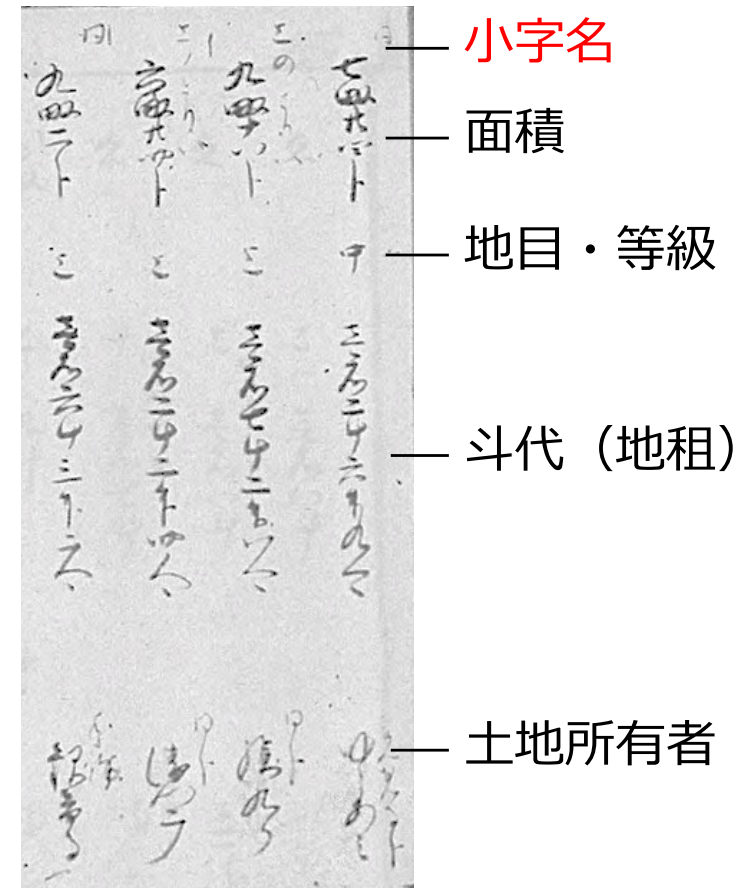
出典：小西佐枝・青柳憲昌「滋賀県草津市常盤地区（旧栗太郡北部）の近世における条里地割の変化—近世初期の『検地帳』と明治初期の『地籍図』の比較検討を通して—」『日本建築学会計画系論文集』第734号、2017年4月



# 江戸時代における条里地割の変化



- 天正検地帳・慶長検地帳
  - 太閤検地の文書
  - 1間 = 6尺3寸<sup>文11)</sup>
- 常盤地区内に残る検地帳
  - 天正・慶長・延宝検地帳 計9冊
  - 地籍図、検地帳の記載内容から比較可能な下物・芦浦のもの<sup>文12)</sup>を使用
- 一筆耕地の面積を小字ごとに足し合わせ、小字名から両資料を照らし合わせて考察
- 記載内容と実地には制度上の差（「縄延び」など）があることも考慮



文11) 『土地制度史Ⅱ』北島正元編、p.48、『近江栗太郡志』（巻壺、1926、p.476）  
文12) 滋賀県立図書館蔵「江州栗太郡之内蘆浦村御検地帳」（『芦浦観音寺文書』3巻、pp.59-115）、「慶長七年近江国栗太郡下物村検地帳」（『下物町共有文書』1巻、pp.1-72）

「江州栗太郡之内蘆浦村御検地帳」  
滋賀県立図書館蔵『芦浦観音寺文書』第3巻

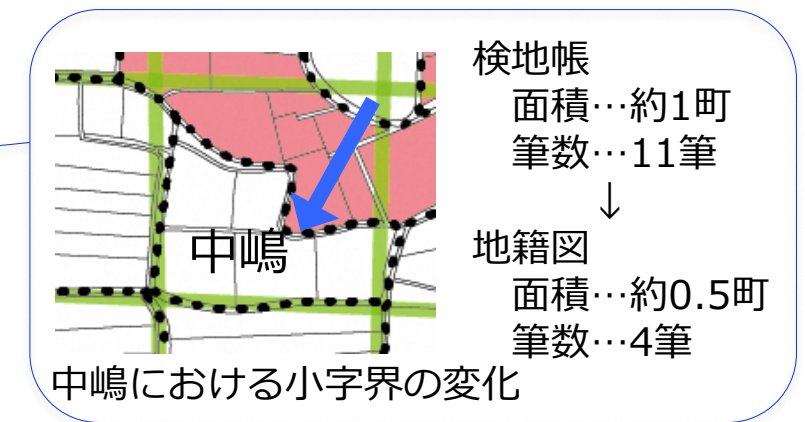
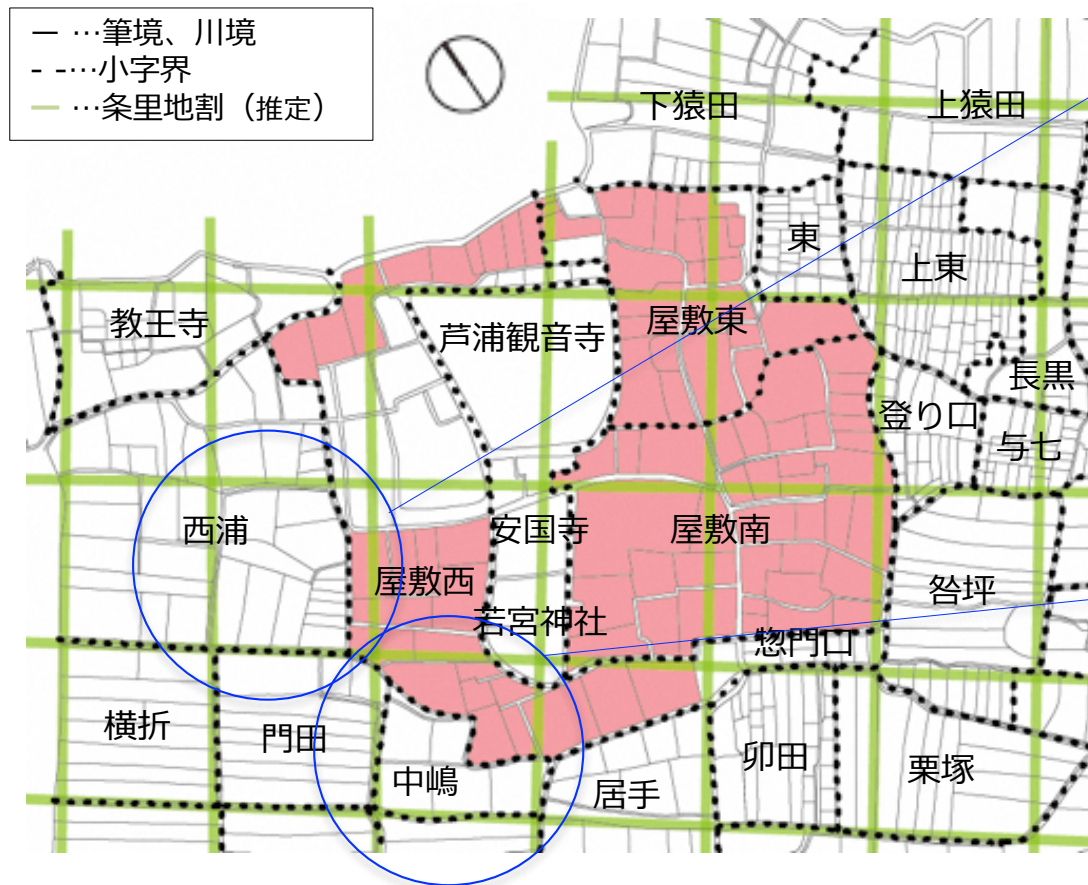


# 江戸時代における条里地割の変化

**芦浦村**…屋敷地周辺は**集落拡大**によって条里地割が崩れたと考えられる

中嶋…江戸時代に面積は半減、形状は屋敷地に侵食されたように不整形

西浦…屋敷地に面する部分のみ条里地割に従わない



芦浦村における地割復原図 (一部)

出典：小西佐枝・青柳憲昌「滋賀県草津市常盤地区（旧栗太郡北部）の近世における条里地割の変化—近世初期の『検地帳』と明治初期の『地籍図』の比較検討を通して—」『日本建築学会計画系論文集』第734号、2017年4月



芦浦村の中核・・・芦浦観音寺  
阿弥陀堂（室町前期【重文】）・書院（江戸前期【重文】）



環濠



阿弥陀堂



書院



観音寺阿弥陀堂 室町前期【重文】

禅宗様の和様化の一例







典型的な「禅宗様」 (方三間裳階なし)  
普濟寺仏殿 京都府 南北朝時代【重文】



# 草津市の歴史的民家

吉田家住宅 志那町、天保5（1835）年頃（家相図）【県指定】  
庄屋の住宅・・・瓦葺き、軒裏・外壁の塗り込め・・・防火デザイン







土間から奥への見通し（3室）  
奥に庭があり開放されるのは珍しい



カマド  
通り庭にあり、板間（ダイドコロ／囲炉裏がある）と接続する



作図：立命館大学建築史研究室



長屋門

庄屋の屋敷構えがよく残っている点で貴重



・広い土間空間  
 ・マヤ：牛の飼育

■ 六間取りは庄屋階級の特徴  
 ※一般的な民家は「四間取り」  
 ■ ザシキ・・・床を矩折りに配する

吉田家住宅 平面図

作図：立命館大学建築史研究室





富江家住宅（彦根・明治初期～中期）  
湖東の一般的民家の一例

※琵琶湖博物館に移築



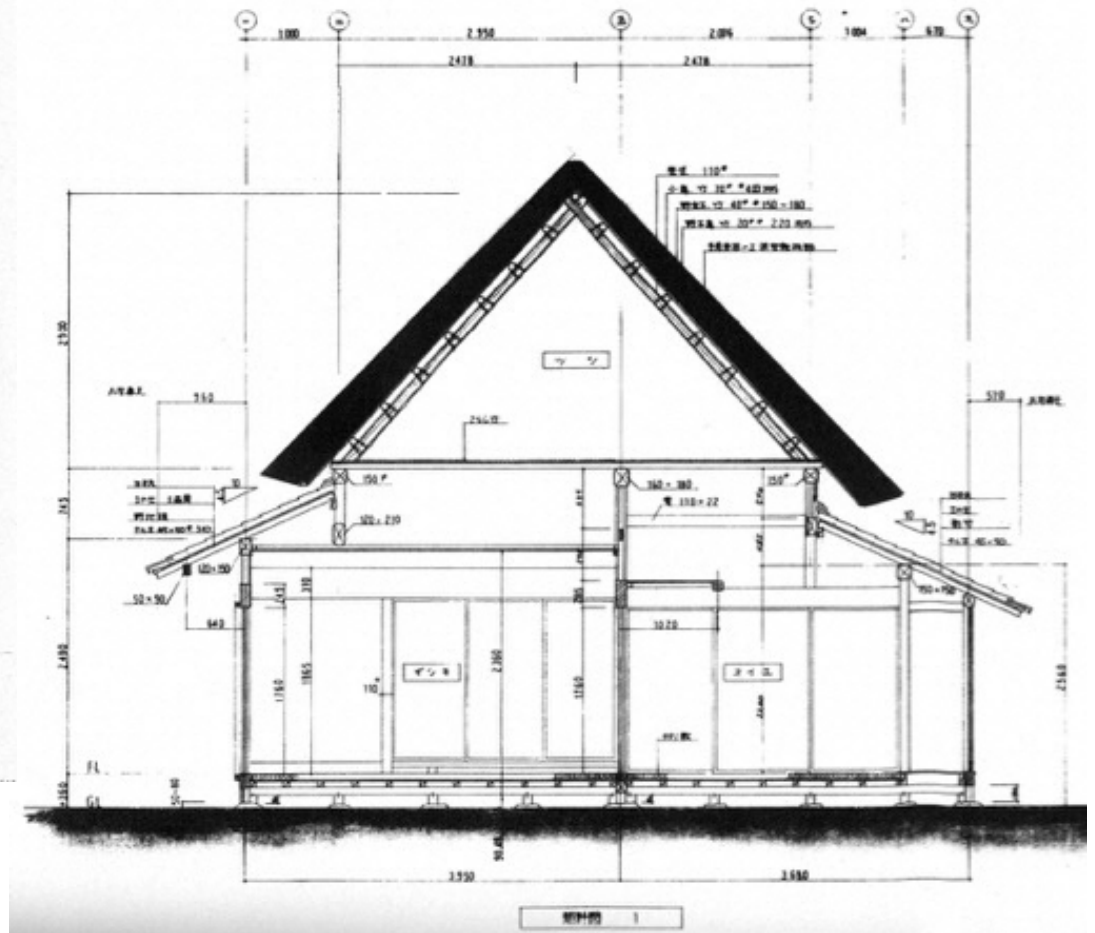
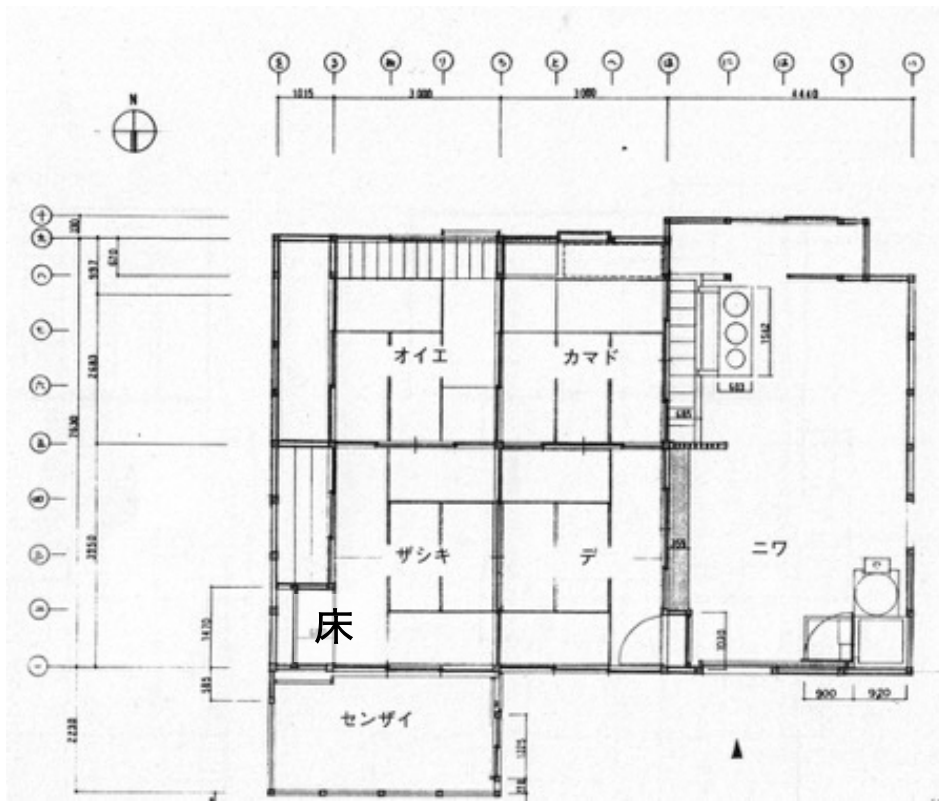




デ/ザシキ



カマド



出典：室谷誠一他「富江家の住まい」  
『琵琶湖博物館研究調査報告』2000年7月



志那・市川登家住宅（未調査）

周辺集落の庄屋スタイルの民家の一例・・・この地域に散見される





# わずかに残る茅葺き民家



下物集落の茅葺き民家



# わずかに残る茅葺き民家



八幡神社付近の茅葺き民家



# 草津市の神社建築

「前室付三間社 流造」について



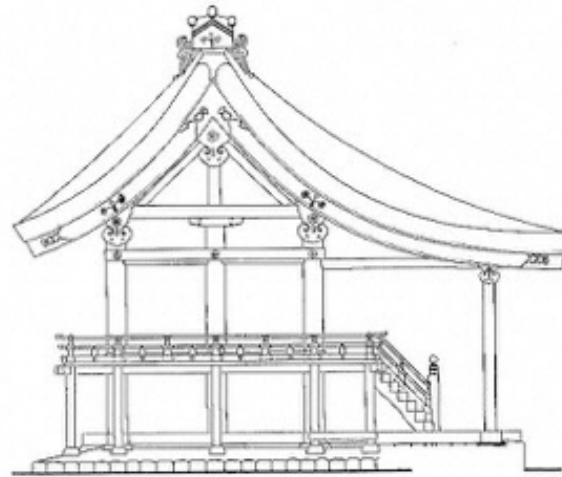
# 「前室付三間社 流造」とは？

- ・ 外観は「様式」（流造り）を保持しながら増築
- ・ 流造りの様式性をさらに強調

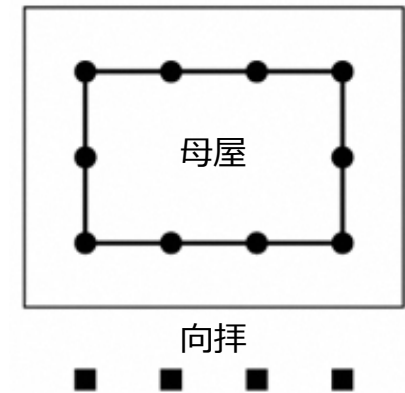
「前室」：三間社流造の母屋の前に柱を立てて庇とし「前室」を設ける  
内部の使い方の変化（祭祀との関係）・・・詳細は不明



前室なしの三間社流造（下鴨神社本殿）  
出典：『国宝大事典 5』講談社、1985



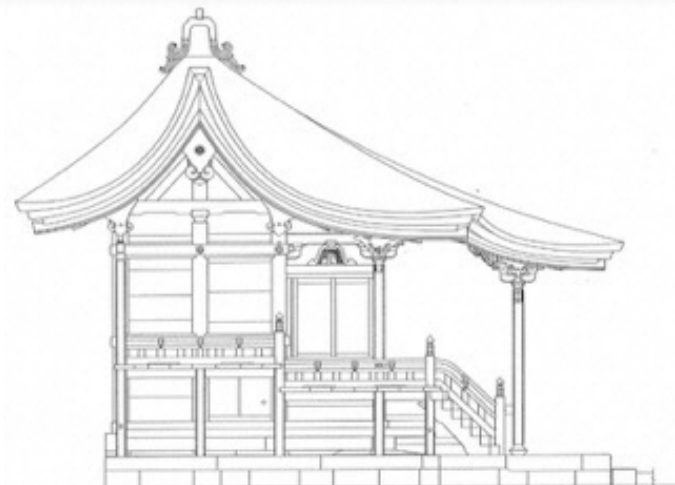
三間社流造（上賀茂神社、『日本建築史図集』）



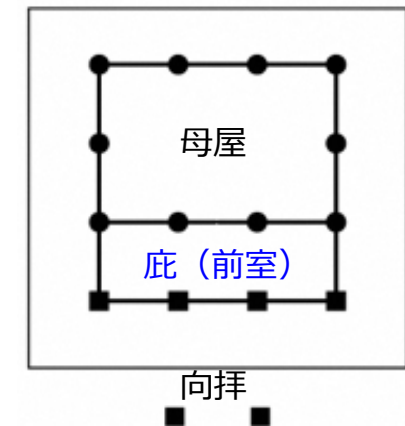
三間社流造（概念図）



前室付三間社流造（若宮神社）



前室付三間社流造（若宮神社、修理工事報告書）

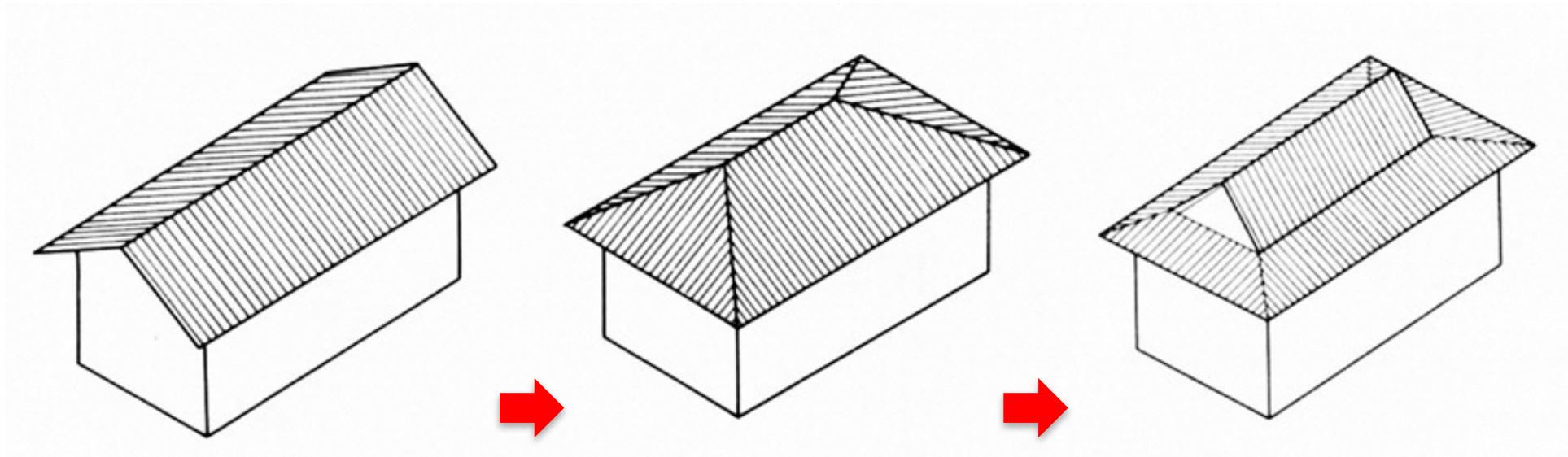


前室付三間社流造（概念図）



# 日本建築の屋根形式

切妻造 + 寄棟造 = 入母屋造



きりづま  
切妻造

よせむね  
寄棟造

しころぶ  
鋳葺き  
(入母屋造)

神社建築

寺院建築

# 前室付三間社流造の全国的分布

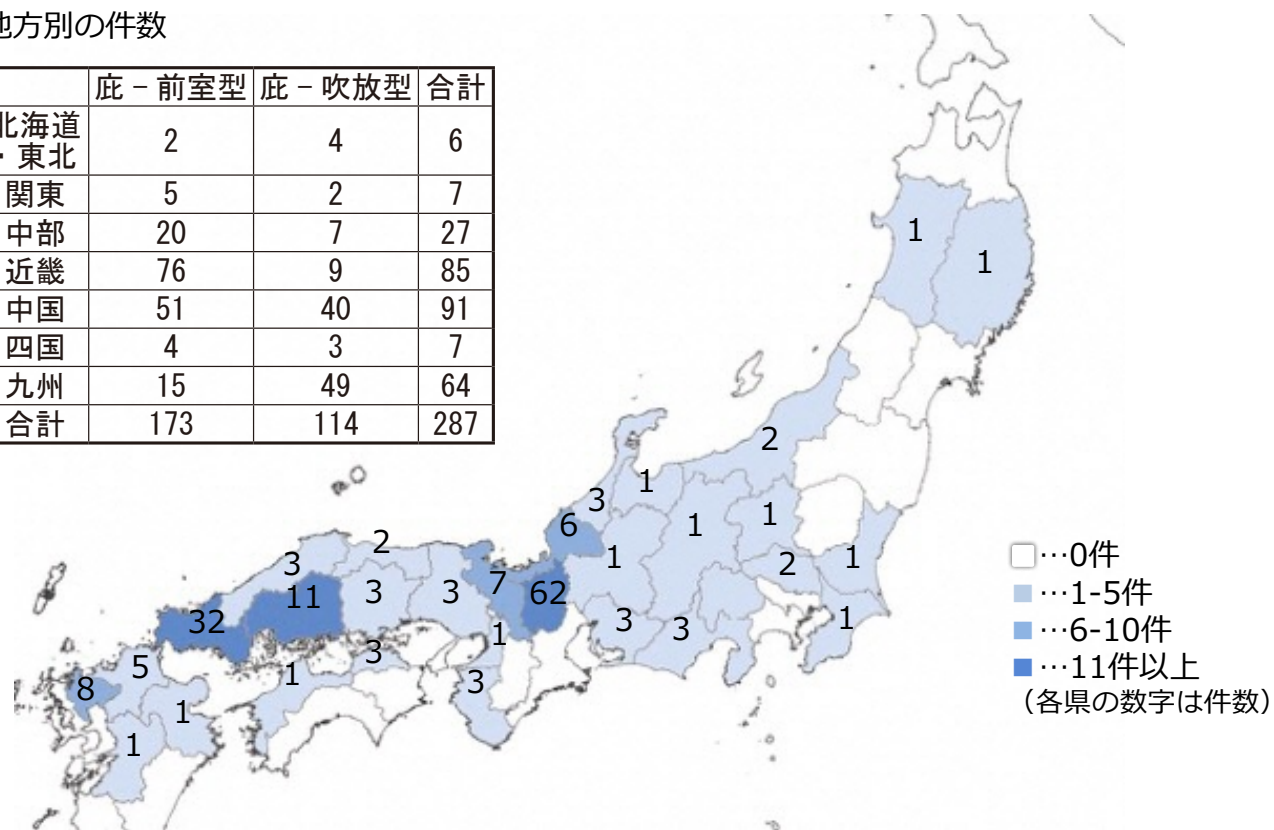
- ・全国的に見ると、「前室付三間社流造」は**滋賀県に特徴的**
- ・草津市の常盤地区には2社（印岐志呂神社・三大神社）ある

※関西では前室をつけない三間社流造が多い

・京都…67件　・大阪…45件　・奈良…26件　・兵庫…51件

地方別の件数

	庇 - 前室型	庇 - 吹放型	合計
北海道 ・東北	2	4	6
関東	5	2	7
中部	20	7	27
近畿	76	9	85
中国	51	40	91
四国	4	3	7
九州	15	49	64
合計	173	114	287



都道府県別前室付三間社流造の件数

出典：小西佐枝・青柳憲昌「滋賀県における前室付三間社流造本殿の外観意匠の特徴」『日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系』2017年



# 前室付三間社流造りの滋賀県における意匠的特徴の地方性 とりわけ「前室」の開放性／閉鎖性について

## ● 前室の開放型／閉鎖型(文19)

①前室の三方を格子戸類の建具を用いて  
開放的なものにする

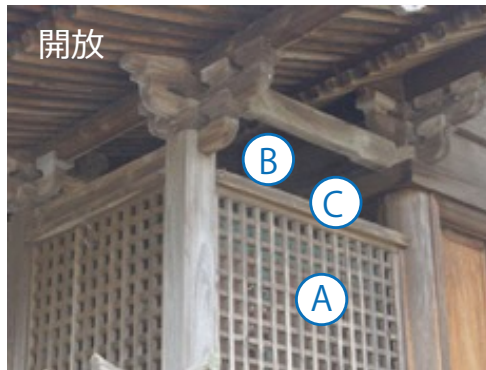
(前室両側面を壁(嵌板)や板扉とするも  
のは「前室閉鎖型」に分類する)

②前室の小壁を開放とする

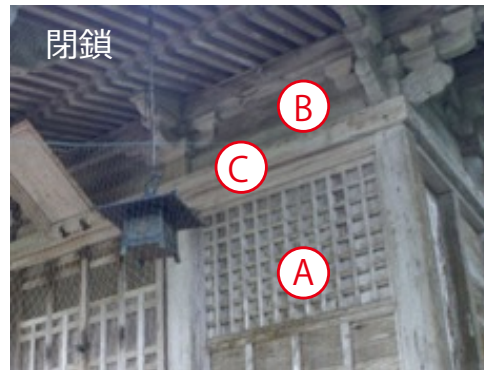
③前室外部に内法長押を廻さない

いずれかに該当するものを「開放型」とする

中世では前室開放型が多く(12/16件)、近世  
には閉鎖型が増える(特に北部)

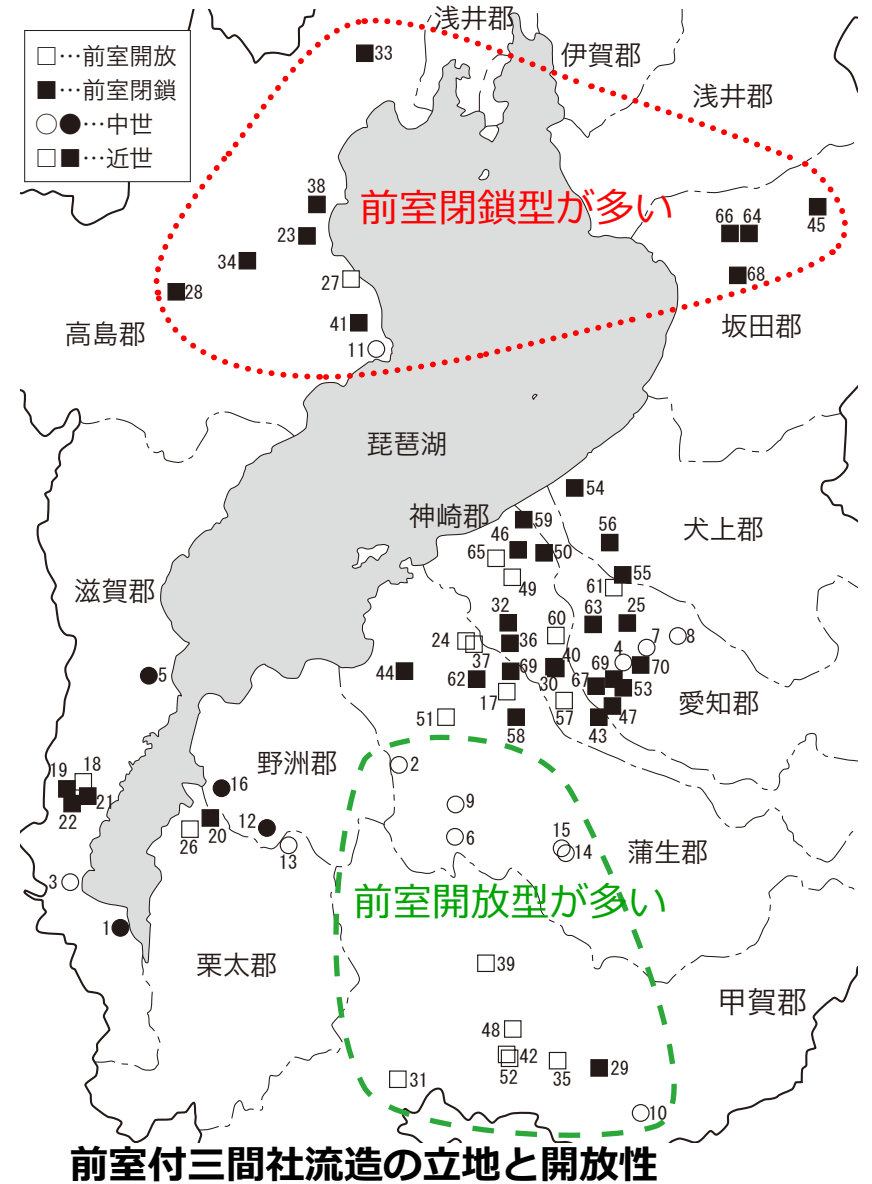


①建具開放・②小壁開放・③長押なし



①建具閉鎖・②小壁あり・③長押あり

前室の扱い方(左:高木神社、右:大荒比古神社)



文19) 大上直樹「中世近江地方の三間社流造本殿の平面形式について」『日本建築学会大会学術講演梗概集』(1979、pp.1919-1920)を参考にした。

出典:小西佐枝・青柳憲昌「滋賀県における前室付三間社流造本殿の外観意匠の特徴」『日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系』2017年



印岐志呂神社本殿 慶長4（1599）年【市指定】  
滋賀県の中世神社の傑作：古式を保持／木太く力感がある





# 滋賀県における意匠的特徴の地方性（大阪との違い）

長野神社本殿（大阪府河内長野、桃山時代） ※大阪府の中世神社は、装飾的・技巧的





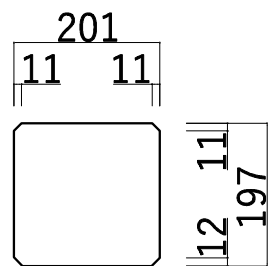
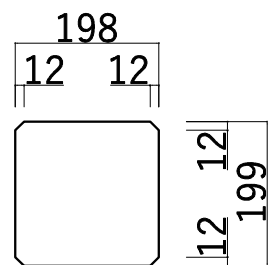
三大神社本殿 承応4（1655）年【未指定】  
滋賀県の近世神社の典型：古式を保持、疎垂木などの特異性も多い



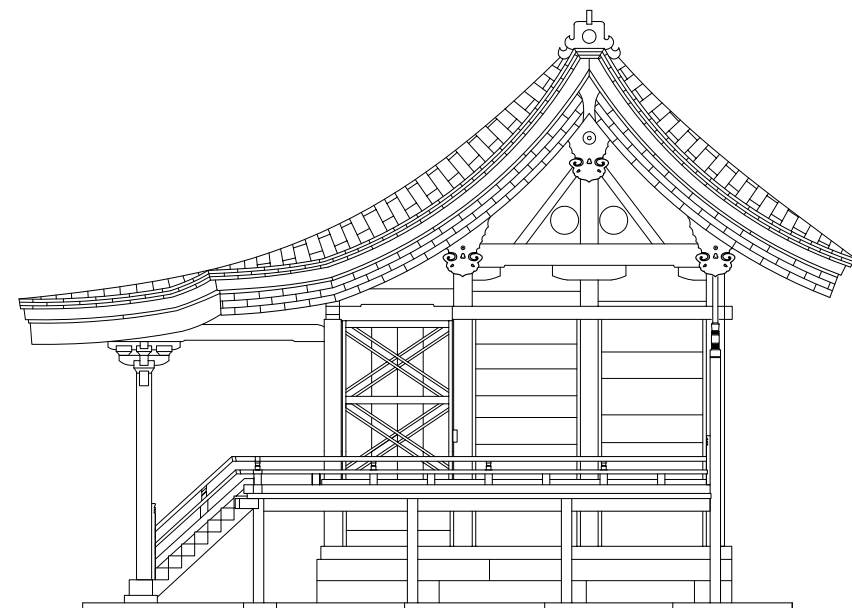
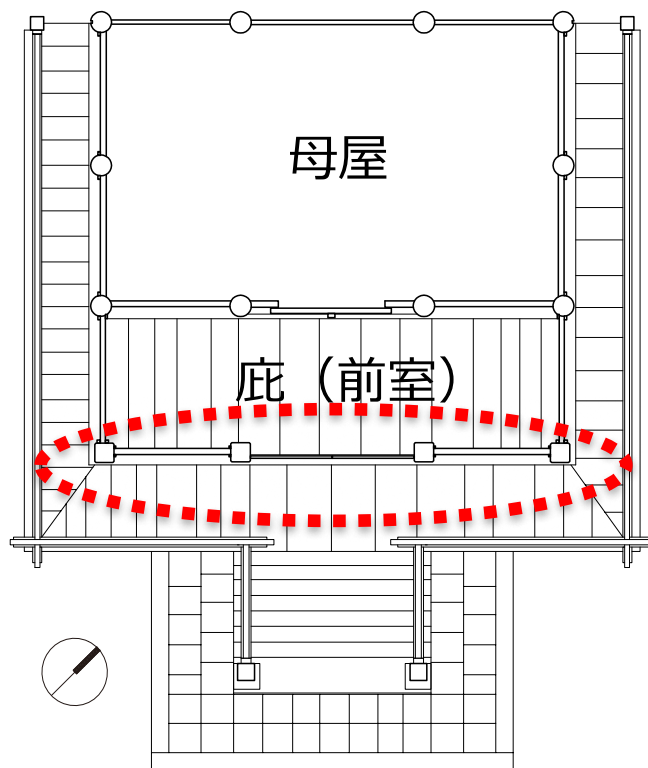


# 三大神社（本殿）の創建年代…江戸時代初期と考えられる

- ・ 建設年は承応4（1655）年（棟札写：『近江栗太郡志』より）
- ・ 実測及び文献的調査より、三大神社の建設年は近世初期で妥当
  - ① 庇の柱の「面」…約1/18（江戸時代は1/13～1/20程度）
  - ② 臺股、手挟の不使用（近世初期の神社では不使用のものが多い）



庇柱（平面図）



三大神社平面図・立面図  
（作図：立命館大学建築史研究室）

出典：小西佐枝・青柳憲昌「三大神社本殿の建設年と意匠的特徴」  
『日本建築学会大会学術講演集梗概集』2016年





印岐志呂神社本殿の縁下の腰掛け



# 三大神社と印岐志呂神社・・・日吉大社の床下祭礼の形式の残存か？

## ①日吉大社との繋がり

- 印岐志呂神社の大工は大津坂本の藤原
- 芦浦観音寺代官は日吉大社の再興に関わる

## ②建築様式の類似性

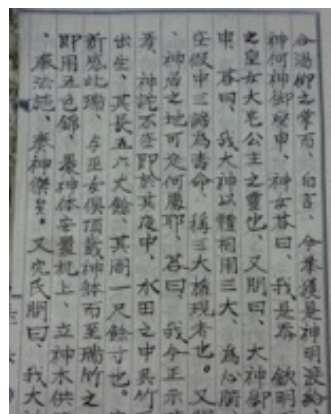
- 前室付三間社流造り
- 建具形式、平面形式（母屋正面脇間を板壁とするなど）
- 手挟・臺股を使用しない

## ③床下の利用

- 日吉七社で行われている床下祭礼<sup>文20)</sup>
- 常盤地区の神社の建具（間仕切り）の痕跡、柱の仕上げ（16角、丸柱への加工）



日吉七社での床下祭礼



三大神社の祭礼に関する資料



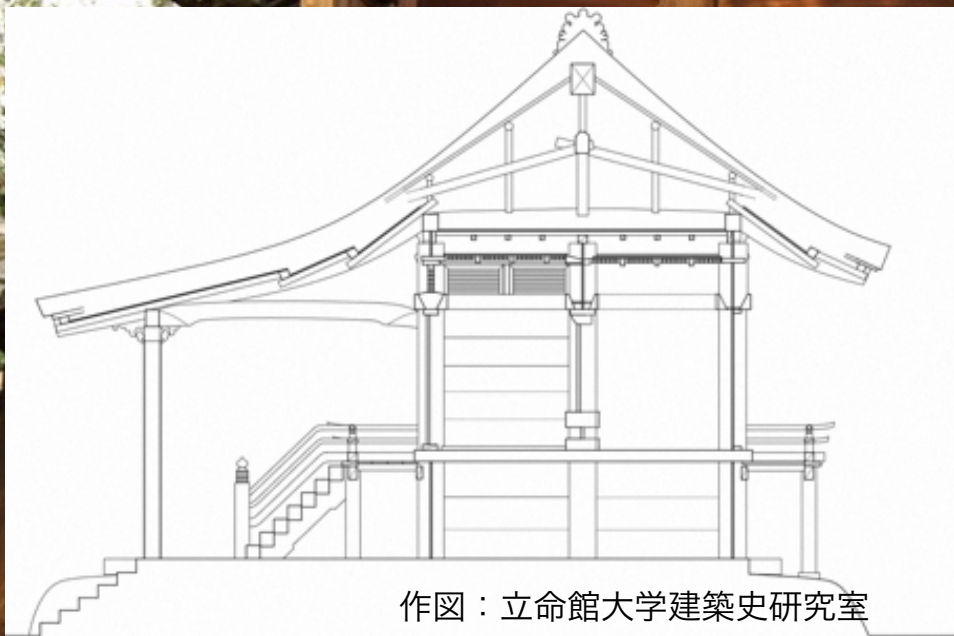
三大神社本殿の床下



印岐志呂神社本殿の床下の柱



立木神社本殿 大正8（1919）年：地棟墨書【未指定】  
近代における復古様式





老杉神社本殿 室町時代、宝徳4（1453）年：棟木墨書【重文】  
前室付三間社流造（母屋前間を前室とする）／向拝三間幅





# 志那神社 鎌倉時代、永仁6（1298）年：棟木銘【重文】

一間社流造りの名建築／使用木材の良質さ

基壇による神聖さの表現









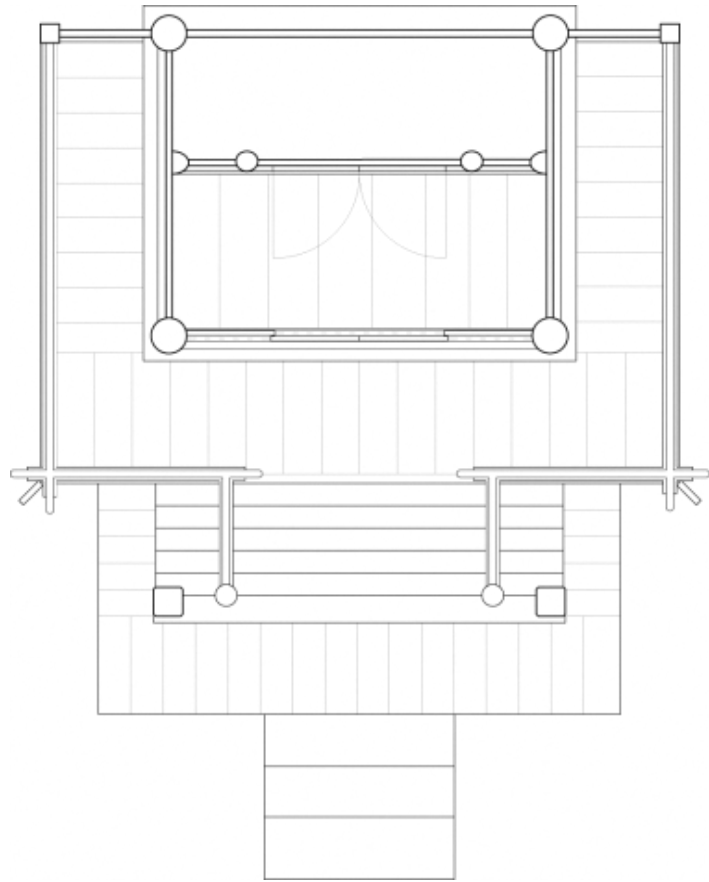
春日神社本殿 享保8（1723）年以前？：文献【未指定】

装飾が少なく、木太い。外観の風格。※サンヤレ踊りが行われる古社

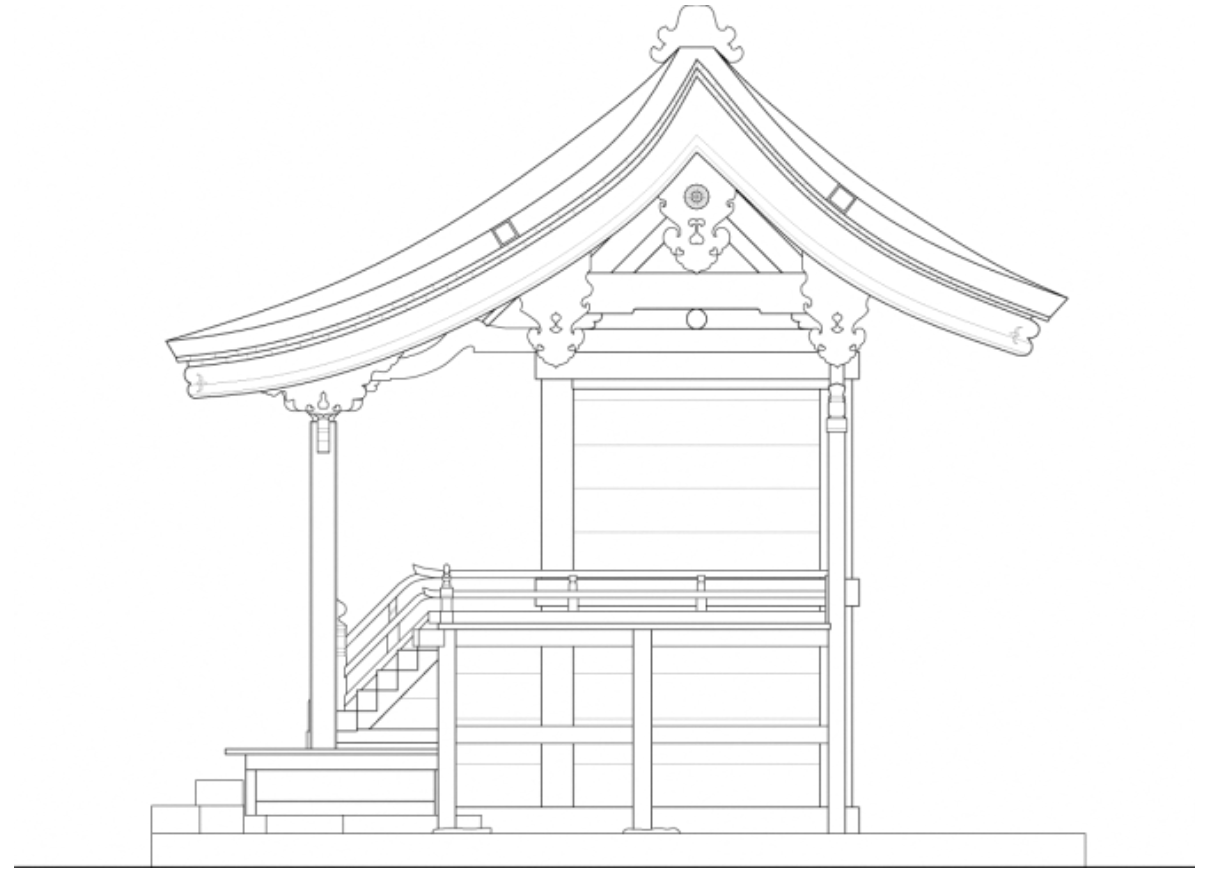


覆屋による屋根の保護、  
鉄筋による建物の傾斜  
の是正・・・早期の保存  
対策が望まれる。





春日神社 平面図・立面図  
(作図：立命館大学建築史研究室)



社殿上葺棟札：享保8（1723）京都から来た葺師  
によって屋根の葺き替えが行われた。

「氏神春日大明神 享保八癸卯歳三月吉日 天下泰平国  
土安穩 棟梁檜皮屋 京河原町通竹屋町上ル 葺師太郎  
兵衛 忰太左衛門 太右衛門 宇兵衛 久兵衛 吉兵衛  
博兵衛 市兵衛」（『近江栗太郡志』より）



新宮神社本殿 室町時代、大永3（1523）年：棟札【重文】  
一間社流造り／正面に唐破風を付ける・・・流造りの中世的变化の一形態





鞭崎神社表門 江戸時代（慶長）【重文】

膳所城の遺構を移築





鞭崎神社本殿 天保期頃？【未指定】

下鴨神社摂社河合神社本殿の遺構を移築（一部の部材のみか）・・・今後の研究課題







河合神社本殿





総社神社本殿 元禄8（1695）年：棟札【未指定】

入母屋造りは珍しい／装飾性豊か・・・当時の先進的意匠・・・草津市神社のバラエティを示す



入母屋造りの神社は珍しい